

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	福岡工業大学短期大学部
設置者名	学校法人 福岡工業大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	情報メディア学科	夜・通信	12		26	38	7	
		夜・通信						
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

『高等教育段階の教育費負担軽減新制度に係る実務経験のある教員による授業科目一覧』
[https:// www.fit.ac.jp/ gakusei/ zaigakusei/ index](https://www.fit.ac.jp/gakusei/zaigakusei/index)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	福岡工業大学
設置者名	学校法人 福岡工業大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページで公表 <https://www.fit.ac.jp/daigaku/syokai/yakuin>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 代表取締役会長	2021/11/29- 2024/11/28	就職
非常勤	株式会社 相談役 兼 監査役	2021/11/29- 2024/11/28	総務・渉外
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福岡工業大学短期大学部
設置者名	学校法人 福岡工業大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。																																										
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)																																										
授業計画(シラバス)は、毎年3月に科目担当教員が『シラバス作成の手引き』及び『成績評価ガイドラインに従い、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーは基より、授業形態の表記、実務経験、各授業のテーマ、授業外学習内容、ICTの活用、オフィスアワー等を考慮しながら、シラバス管理システムにて作成する。その後、教員相互チェックにより、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの整合性や達成目標と成績評価方法等の適合性について確認する。その後、科目担当教員による修正の後、短大事務職員による最終チェックを経て4月1日にシラバスを公開する。																																										
その他、シラバスの記載内容は、学生が理解できるように最大限配慮し、授業科目の目標や授業内容、参考図書、履修上のアドバイス、成績評価方法、成績評価基準等の記載内容等について、入学時のオリエンテーションにおいて『シラバスの見方』を説明し活用を促している。なお、学習教育目標に関する科目の関与の程度についても一覧表で示している。																																										
・シラバスに記載する学習教育目標に関する科目の関与の程度と達成目標																																										
<table><tr><th colspan="2">修得する知識・能力(DP)</th><th>関与度</th><th>達成目標</th></tr><tr><td>A</td><td>職業的・社会的自立に必要な人間関係形成・社会形成能力等の汎用的能力</td><td></td><td></td></tr><tr><td>B</td><td>グローバル化社会に必要な社会制度や異文化についての知識とコミュニケーション能力</td><td></td><td></td></tr><tr><td>C</td><td>情報工学修得の基礎となる数学及び自然科学に関する知識とそれらを活用する能力</td><td>○</td><td>チームメンバーと協力して積極的に取り組むことができる</td></tr><tr><td>D</td><td>情報通信技術や情報処理に関する基礎的な知識と実務的スキル</td><td></td><td></td></tr><tr><td>E</td><td>アルゴリズムやデータ構造に関する知識とプログラミングする能力</td><td>○</td><td>職場、学校、家庭などの場面における人間関係について心理学の知見をもとに説明できる</td></tr><tr><td>F</td><td>ハードウェアを動かすための情報メディアに関する知識とそれらを活用する能力</td><td>◎</td><td>倫理的・情緒的コミュニケーションのための基礎的なスキルを使用することができる</td></tr><tr><td>G</td><td>情報表現をするための情報メディアに関する知識とそれらを活用する能力</td><td>○</td><td>あらかじめ出した課題を行い、授業に臨むことを身につける</td></tr><tr><td>H</td><td>企業において情報活用能力を備えた人材として活躍するために必要な経営の専門知識</td><td>○</td><td>出された課題に取り組み、期日までに提出することができる</td></tr><tr><td>I</td><td>各領域における課題に対して情報技術を活用し社会の具体的な課題を解決できる能力</td><td></td><td></td></tr></table>			修得する知識・能力(DP)		関与度	達成目標	A	職業的・社会的自立に必要な人間関係形成・社会形成能力等の汎用的能力			B	グローバル化社会に必要な社会制度や異文化についての知識とコミュニケーション能力			C	情報工学修得の基礎となる数学及び自然科学に関する知識とそれらを活用する能力	○	チームメンバーと協力して積極的に取り組むことができる	D	情報通信技術や情報処理に関する基礎的な知識と実務的スキル			E	アルゴリズムやデータ構造に関する知識とプログラミングする能力	○	職場、学校、家庭などの場面における人間関係について心理学の知見をもとに説明できる	F	ハードウェアを動かすための情報メディアに関する知識とそれらを活用する能力	◎	倫理的・情緒的コミュニケーションのための基礎的なスキルを使用することができる	G	情報表現をするための情報メディアに関する知識とそれらを活用する能力	○	あらかじめ出した課題を行い、授業に臨むことを身につける	H	企業において情報活用能力を備えた人材として活躍するために必要な経営の専門知識	○	出された課題に取り組み、期日までに提出することができる	I	各領域における課題に対して情報技術を活用し社会の具体的な課題を解決できる能力		
修得する知識・能力(DP)		関与度	達成目標																																							
A	職業的・社会的自立に必要な人間関係形成・社会形成能力等の汎用的能力																																									
B	グローバル化社会に必要な社会制度や異文化についての知識とコミュニケーション能力																																									
C	情報工学修得の基礎となる数学及び自然科学に関する知識とそれらを活用する能力	○	チームメンバーと協力して積極的に取り組むことができる																																							
D	情報通信技術や情報処理に関する基礎的な知識と実務的スキル																																									
E	アルゴリズムやデータ構造に関する知識とプログラミングする能力	○	職場、学校、家庭などの場面における人間関係について心理学の知見をもとに説明できる																																							
F	ハードウェアを動かすための情報メディアに関する知識とそれらを活用する能力	◎	倫理的・情緒的コミュニケーションのための基礎的なスキルを使用することができる																																							
G	情報表現をするための情報メディアに関する知識とそれらを活用する能力	○	あらかじめ出した課題を行い、授業に臨むことを身につける																																							
H	企業において情報活用能力を備えた人材として活躍するために必要な経営の専門知識	○	出された課題に取り組み、期日までに提出することができる																																							
I	各領域における課題に対して情報技術を活用し社会の具体的な課題を解決できる能力																																									
授業計画書の公表方法	シラバス(授業計画) 検索』 https:// www.fit.ac.jp/gakusei/zaigakusei 『福岡工業大学短期大学部 学生便覧』 https://www.fit.ac.jp/pdf/tandai/2024/gakuseibinran_tan_2024.pdf																																									

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

科目のディプロマ・ポリシーに対する達成目標を評価するため、以下のマトリックスを標準フォーマットとして、評価方法および評価割合をシラバスに記載している。科目担当教員は、授業に3分の2以上出席した学生に対し、学期末試験やレポート課題等を点数化し、成績評価基準表に従って厳格かつ適正に学修成果を評価し、単位を付与している。

●成績評価方法と割合の例

DP カテゴリ	学期末試験	小テスト	課題・レポート	授業取組	発表・プレゼンテーション	学生による振り返り	授業外学修	その他
A・C・D 【専門力・教養力】	○							
B 【倫理観・責任感】			○					
E・F 【発想力・表現力】								
G・H・I 【主体性】						○		
評価割合	70		10			20		

●成績評価の基準表

評価	秀	優	良	可	不可
評点	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0
評価基準	達成目標を理想的なレベルで達成し、きわめて優秀な成果をおさめている	達成目標を理想的なレベルで達成している	達成目標を標準的なレベルで達成している	達成目標を最低限達成している	達成目標を達成できていない

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPA、平均点、単位取得等の成績評価に基づき、各学年の成績順位表や成績分布表等を作成して状況の把握に努めており、学生は成績順位確認申請を行うことにより、学科内での順位を随時確認することができる。

GPAは、教務システムにて以下の式により自動計算され、短大事務室が作成する成績順位や成績分布の基礎資料として活用し、学科教員と都度情報の共有を行っている。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{科目の単位数} \times \text{科目で得たGP}) \text{の総和}}{(\text{履修登録単位数}) \text{の総和}}$$

評価	秀	優	良	可	認定	不可
評点	100～90	89～80	79～70	69～60	—	59～0
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	—	0

GPA は次の項目に使用する

- ・成績優秀者の選出基準
- ・奨学金受給対象者の選考基準
- ・編入学試験時の学校推薦基準
- ・就職試験時の学校推薦基準
- ・修学指導
- ・進級・卒業の判定基準
- ・退学勧告

客観的な指標の
算出方法の公表方法

『GPA の算定について』
https://my.ebook5.net/FIT-ebook5/2024_tan_binran/?page=39

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 学生が修得する資質・能力について、A～Iを定義しており、この方針に基づき学科におけるディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を設定し卒業認定および学位授与を行っている。卒業条件で定める62単位以上を取得すれば、ディプロマ・ポリシーに適う卒業に必要な資質・能力を修得したと教授会にて判定され、学長が学位を授与する。 A：職業的・社会的自立に必要な人間関係形成・社会形成能力、自己理解、自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力等の汎用的能力を身につけている。 B：グローバル化した社会において市民としての社会的責任を果たすために必要な社会制度や異文化についての知識とコミュニケーション能力を身につけている。 C：情報工学を修得する上で基礎となる数学及び自然科学に関する知識とそれらを活用する能力を身につけている。 D：情報通信技術や情報処理に関する基礎的な知識と実務的スキルを身につけている。 E：コンピュータソフトウェアを構成するプログラムについて、アルゴリズムやデータ構造に関する知識とプログラミングする能力を身につけている。 F：コンピュータのハードウェアを動かすための基礎となる電気、電子、および回路に関する知識とそれらを活用する能力を身につけている。 G：コンピュータを活用して情報表現をするための情報メディアに関する知識とそれらを活用する能力を身につけている。 H：企業において情報活用能力を備えた中核的な人材として活躍するために必要な経営に関する専門知識を身につけている。 I：専門科目で身につけた知識・技術をベースとして、更に専門的に細部化した応用領域における実践的能力を有している。各領域における与えられた課題に対して、個人またはチームで計画的に取り組み、情報技術を活用して社会の具体的な課題を解決できる能力を身につけている。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	『福岡工業大学短期大学部ディプロマ・ポリシー』 https://www.fit.ac.jp/pdf/kyomu/diploma/2024/diploma_policy_jc2024.pdf 『進級・卒業』 https://my.ebook5.net/FIT-ebook5/2024_tan_binran/?page=41

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	福岡工業大学短期大学部
設置者名	学校法人 福岡工業大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	『事業報告書の財務の概要に記載』 http://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/reports/index
収支計算書又は損益計算書	『事業報告書の財務の概要に記載』 http://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/reports/index
財産目録	『事業報告書の財産目録・監事監査報告書に記載』 http://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/reports/index
事業報告書	http://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/reports/index
監事による監査報告(書)	『事業報告書の財産目録・監事監査報告書に記載』

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 2024(令和6)年度事業計画書 対象年度: 2024年度)
公表方法: http://www.fit.ac.jp/sp/daigaku/disclosure/business_plan
中長期計画(名称: 第9次中期経営計画[マスタープラン])対象年度: R4年度~8年度)
公表方法: http://www.fit.ac.jp/daigaku/syokai/master_plan

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 福岡工業大学短期大学部 自己点検・評価 2022(令和4年度報告書)』 https://www.fit.ac.jp/pdf/tandai/2023/hyoka/2023hyouka.pdf
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 『福岡工業大学短期大学部機関別評価(認証評価)結果』 https://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/tandai/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 情報メディア学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/ ）
（概要）情報メディア学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報工学分野」として、「情報教育を中心とした教育プログラムにより、高度に IT 化された社会における即戦力となる情報活用能力を身につけた人材の育成に加え、社会の構成員として力強く生きていくためのリテラシーを身につけた人材を養成することを目的とする。特に情報活用能力は、コンピュータやプログラミング、情報メディアに関する知識の修得及び実践的な取り扱い方を身につけ、リテラシーは社会科学や自然科学の基礎知識及びコミュニケーション力を身につける」ことを教育研究上の目的としている。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法： https://my.ebook5.net/FIT-ebook5/2024_tan_binran/?page=50 ）
（概要） 修得する知識・能力（学習教育目標） A：職業的・社会的自立に必要な人間関係形成・社会形成能力、自己理解、自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力等の汎用的能力を身につけている。 B：グローバル化した社会において市民としての社会的責任を果たすために必要な社会制度や異文化についての知識とコミュニケーション能力を身につけている。 C：情報工学を修得する上で基礎となる数学及び自然科学に関する知識とそれらを活用する能力を身につけている。 D：情報通信技術や情報処理に関する基礎的な知識と実務的スキルを身につけている。 E：コンピュータソフトウェアを構成するプログラムについて、アルゴリズムやデータ構造に関する知識とプログラミングする能力を身につけている。 F：コンピュータのハードウェアを動かすための基礎となる電気、電子、および回路に関する知識とそれらを活用する能力を身につけている。 G：コンピュータを活用して情報表現をするための情報メディアに関する知識とそれらを活用する能力を身につけている。 H：企業において情報活用能力を備えた中核的な人材として活躍するために必要な経営に関する専門知識を身につけている。 I：専門科目で身につけた知識・技術をベースとして、更に専門的に細部化した応用領域における実践的能力を有している。各領域における与えられた課題に対して、個人またはチームで計画的に取り組み、情報技術を活用して社会の具体的な課題を解決できる能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.fit.ac.jp/pdf/kyomu/curriculum/2024/curriculum_policy_jc2024.pdf ）
（概要） 1. 学修領域（教育分野） （1）一般教育科目 ①初年次・キャリア系 ②外国語・人文・社会科学系 ③自然科学系 （2）専門教育科目 ①情報基礎系 ②プログラミング系 ③ハードウェア系

- ④メディア系
- ⑤経営系
- ⑥PBL系

2. 学位授与の方針を踏まえた教育課程の編成方針

本学では、学位授与の方針を踏まえ、高度に IT 化された社会における情報工学（情報通信・制御技術、情報処理技術）及びメディアコミュニケーションの各分野で即戦力として活躍できる技術者及び大学等に編入学して更に学びを深める人材を養成するために、次の教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を定める。

- (1) 職業的・社会的自立に必要な人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力等の汎用的能力を身につけるために、健康で充実した学生生活を送るための知識やスキルに関する初年次科目と、卒業後の進路選択や社会的・職業的自立の助けとなる知識やスキルに関するキャリア科目を配置する。
- (2) グローバル化した社会において市民としての社会的責任を果たすために必要な社会制度や異文化についての知識とコミュニケーション能力を身につけるために、社会科学の知識を修得するための科目と外国語等の言語に関する科目を配置する。
- (3) 情報工学を修得する上で基礎となる数学及び自然科学に関する知識とそれらを活用する能力を身につけるために数学および物理学の科目を配置する。
- (4) 情報通信技術や情報処理に関する基礎的な知識と実務的スキルの修得とともに、高度 ICT 社会に対応できる素養を身につけるための科目を配置する。
- (5) コンピュータソフトウェアを製作する上で必要な工程やデータ構造、及びプログラミングに必要な知識や能力を身につけるために、プログラミングに関する科目を配置する。
- (6) コンピュータのハードウェアを動かすための基礎となる電気、電子、および回路に関する知識とそれらを活用する能力を身につけるために、電気、電子および回路に関する工学分野の科目を配置する。
- (7) コンピュータや各種アプリケーションソフトを活用して情報を表現するための情報メディアに関する基礎知識及び技能に関する知識とソフトウェアを使用した技能を身につけるための科目を配置する。
- (8) 企業において情報活用能力を備えた中核的な人材として活躍するために、情報技術者の業務やマネージャーの管理業務に関連が高い経営学の科目を配置する。
- (9) 専門科目で身につけた知識・技術をベースとして、更に応用領域における実践的能力を向上させながら、各領域における与えられた課題に対して計画的に取り組み、情報技術を活用して社会の具体的な課題を解決できる能力を身につけるために、PBL（課題解決型学習）科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.fit.ac.jp/kyoiku/rinen/policy/tandai>）

（概要）

1. 養成すべき人物像

情報メディア学科の「養成すべき人物像」は、高度に IT 化された社会において、情報の分野で即戦力となる技術者の養成および大学等に編入学して更に学びを深める人材の養成を目的とする。

2. 求める人物像

養成すべき人物像」を育てるにあたり、次の資質を持つ学生を求めている。

- ・ 高度に IT 化された社会で生活・就業する上で必要な基本的なコンピュータスキルと、情報またはメディアに関する知識や技術をより深く身につけ、学びたい人
- ・ 高等学校の主要科目における教科書レベルの知識を有し、本学で学ぶ上で必要な基礎学力を有している人
- ・ 主体性や他者等の協調性を持ち、学ぼうとする意欲が高い人

3. 入学者選抜での観点

「求める人物像」のうち、「高度に IT 化された社会で生活・就業する上で必要な基本的なコンピュータスキルと、情報またはメディアに関する知識や技術をより深く身につけ、学びたい」に関しては、主に面接、小論文(自己アピール文、レポートなど)を総合的に評価して判定する。

また、「高等学校の主要科目における教科書レベルの知識を有し、本学で学ぶ上で求められる基礎学力を有している人」については、主に筆記試験、大学入学共通テスト、提出書類(調査書、推薦書等)を総合的に評価して判定する。

「主体性や他者等の協調性を持ち、学ぼうとする意欲が高い人」については、主に面接、小論文(自己アピール文、レポートなど)、提出書類(調査書、推薦書等)を総合的に評価して判定する。

これらの組み合わせにより、志願者が本学科の求める人物像と合致しているかを判断し、入学者選抜を行う。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：『学校法人 福岡工業大学 組織図』

<https://www.fit.ac.jp/daigaku/syokai/soshiki>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	人	—					人
情報メディア学科	—	5 人	6 人	人	3 人	人	14 人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1 人		14 人					15 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：『教員一覧・研究概要(情報メディア学科)』 https://www.fit.ac.jp/gakubu/jc/kyoin_joho_tandai 『福岡工業大学 研究者情報データベース』 https://www.fit.ac.jp/research					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
本学では教育推進委員会を設置し、教育改善に関する諸取組（FD：Faculty Development）について、有効かつ必要な方策を教授会に提案し、企画・実施している。教育推進委員会では講義PDCAを中心に教育改善に組織的に取り組んでいる。①まず年度ごとに学科の目標を設定（学生による授業アンケートで各学科の目標とする満足度のポイントを設定）、授業に関するアンケートを実施する。②そのアンケート結果について評価・議論を行い、目標値に達しなかった授業に関しては、担当者に対して「理解度・満足度目標未達成科目自己点検評価計画書」の作成を依頼し、次期の授業改善を促す。③授業実施後は、同成果報告書の作成を依頼し、改善結果を検証する。④自由記述で学生から授業や担当者に対して要望があった場合は、担当者が改善するための回答を準備し、学生に対して回答する。 さらに、中村学園大学短期大学部と本学は交流協定を締結しており、その一環として教育改善に資する取り組みを行っており、本学の専任教員は原則全員が参加することを機関決定している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
情報メディア 学科	160 人	154 人	96%	320 人	329 人	103%	人	人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	160 人	154 人	96%	320 人	329 人	103%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
情報メディア 学科	148 人 (100%)	64 人 (43.2%)	72 人 (48.7%)	12 人 (8.1%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	148 人 (100%)	64 人 (43.2%)	72 人 (48.7%)	12 人 (8.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 就職先) (株)アトラスシー (株)ゼンリンマップテック (株)ソルクシーズ センコー(株) 日鉄テクノロジー(株) トヨタモビリティパーツ(株) eBASE-PLUS(株) (株)サンテック 東邦電気工業(株) (株)スリーエイ・システム 日本テクノストラクチャ(株) 航空自衛隊 (株)九州ソフトタス 久留米情報システム (株)メディアシステム他 進学先) 福岡工業大学 宮崎大学 岐阜大学 北九州市立大学 豊橋技術科学大学 島根大学 下関市立大学 大阪工業大学 九州産業大学 久留米大学 九州共立大学 久留米工業大学 西日本工業大学 九州情報大学 他				
(備考) その他 12 名の内に専門学校進学者 3 名含む				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
情報メディア 学科	179 人 (100%)	134 人 (74.9%)	22 人 (12.3%)	23 人 (12.8%)	0 人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	179 人 (100%)	134 人 (74.9%)	22 人 (12.3%)	23 人 (12.8%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
授業計画(シラバス)は、毎年2月に科目担当教員が『シラバス作成の手引き』及び『成績評価ガイドライン』に従い、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーは基より、授業形態の表記、教職課程、実務経験、各授業のテーマ、授業外学習内容、ICTの活用、オフィスアワー等を考慮しながら、シラバス管理システムにて作成する。その後、各学科教員および教務課職員による第三者チェックにより、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの整合性や達成目標と成績評価方法等の適合性について確認する。その後、科目担当教員、教務課職員による修正の後、最終シラバスチェックを行い、4月1日にシラバスを公開する。 その他、シラバスの記載内容は、学生が理解できるように最大限配慮し、授業科目の目標や授業内容、参考図書、履修上のアドバイス、成績評価方法、成績評価基準等の記載内容等について、学生便覧に『シラバスの見方』を例示して説明している。また、各学科において習得する知識・能力(ディプロマ・ポリシー)と科目の関与度についても一覧表で示している。

●シラバスに記載する科目のディプロマ・ポリシーと達成目標（例）			
修得する知識・能力（DP）		関与度	達成目標
A	職業的・社会的自立に必要な人間関係形成・社会形成能力等の汎用的能力		
B	グローバル化社会に必要な社会制度や異文化についての知識とコミュニケーション能力		
C	情報工学修得の基礎となる数学及び自然科学に関する知識とそれらを活用する能力	○	チームメンバーと協力して積極的に取り組むことができる
D	情報通信技術や情報処理に関する基礎的な知識と実務的スキル		
E	アルゴリズムやデータ構造に関する知識とプログラミングする能力	○	職場、学校、家庭などの場面における人間関係について心理学の知見をもとに説明できる
F	ハードウェアを動かすための情報メディアに関する知識とそれらを活用する能力	◎	倫理的・情緒的コミュニケーションのための基礎的なスキルを使用することができる
G	情報表現をするための情報メディアに関する知識とそれらを活用する能力	○	あらかじめ出した課題を行い、授業に臨むことを身につける
H	企業において情報活用能力を備えた人材として活躍するために必要な経営の専門知識	○	出された課題に取り組み、期日までに提出することができる
I	各領域における課題に対して情報技術を活用し社会の具体的な課題を解決できる能力		

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要） 本学ではシラバス作成にあたり、全学的方針に基づきスキームを構築し、必要な情報がすべて掲載され、さらに授業を受講する学生にとってわかりやすいものとなっているかを原則とし、毎年2月頃にシラバス（授業計画）作成に関するFD研修会（全教員参加）を開催し、『シラバス作成の手引き』に沿い、それぞれの項目に関し事前確認を行ってシラバスを作成している。具体的項目としては、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーはもとより、授業形態の表記、教職課程、実務経験、各授業のテーマ、授業外学習内容、ICTの活用、オフィスアワー等である。さらに、2019年度からはより厳格な成績評価を行うためアセスメント・ポリシーを定め、『シラバス作成の手引き』に記載しており、各科目担当者はそれを基に成績評価の視点をシラバスに記載することとした。 3月には、教員相互にシラバスチェックを行い、再度各担当者にフィードバックされた。特に、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの位置づけを踏まえた達成目標の記載、成績評価方法等の内容、授業外学修内容、実務家教員の記載等を入念に確認する。その後、事務職員の最終チェックを経て4月1日にシラバスが公開された。 この他、シラバスの記載内容は、学生が理解できるように最大限配慮し、授業科目の目標や授業内容、参考図書、履修上のアドバイス、成績評価方法、成績評価基準等の記載内容等のシラバスの見方について、年度当初のオリエンテーションにて詳細に説明している。また、各学科において習得する知識・能力（ディプロマ・ポリシー）と科目の関与度についても一覧表で示している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 （任意記載事項）	履修単位の登録上限 （任意記載事項）
	情報メディア学科	62 単位	有・無	46 単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法： https://my.ebook5.net/FIT-ebook5/2024_tan_binran/?page=39		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法： 『教育・研究活動報告書』		

	https://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/kyouikukenkyu 『履修ガイド（修学履修登録）』 https://www.fit.ac.jp/gakusei/seika/rishu_guide
--	---

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： 『キャンパスツアーガイド』『Campus Tour Guide』 http://saas3.startialab.com/acti_books/1045174154/24078/HTML5/pc.html#/page/1 『教育・研究活動報告書』 https://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/kyouikukenkyu 『福岡工業大学・福岡工業大学短期大学部パンフレット』 https://www.fit.ac.jp/daigaku/kouhou/index
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	情報メディア学科	670.000 円	170.000 円	280.000 円	施設設備費、実験実習費 図書費、学生厚生費
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 1. 成績不振の学生の状況把握と指導 本学では、学生情報管理システムを導入しており、教職員が学生の時間割、成績、授業出欠状況を逐次把握している。このシステムを活用し、ゼミ担任、事務局において多欠席や単位不足の学生にタイムリーな指導を行っている。なお、学生の出席状況や成績情報は、保護者も WEB により閲覧可能となっているほか、教育後援会主催の各地域別教育懇談会に教員及び事務局職員が赴き、保護者と個別の相談会も実施している。 2. 学生の能力に応じた補習教育、補充教育・正課外教育 新1年生を対象に基礎学力テスト【数学】（オンライン）を入学前に実施している。 3. 経済的支援の整備 学生が安心して修学を継続できるよう、本学では日本学生支援機構奨学金をはじめ、本学の特別奨学制度により短大6名以内の学生に対して学費の半額を免除する支援を行っている。 4. 障がいのある学生に対する修学支援 「福岡工業大学短期大学部 障がい学生修学支援に関する基本方針」を定め、それに基づき障がい学生修学支援を行っている。修学支援を希望する学生は所定の手続きを行うことで、事前面談を実施し、聞き取りから支援計画書を作成、障がい学生修学支援委員会の了承を経て、双方の合意により支援を開始する。また、半期毎に振り返り面談を行い、支援計画書に反映させ合意を持って支援を継続する。この修学支援は全学的に情報共有し教職協働で行っている。支援担当職員と学生相談室が定期的に面談を行う場合もあり、相談内容が違って対応できるようにしている。

学生相談室には、常勤カウンセラー4名を配置していて、保健室には常時2名の看護師を配置している。 5. 「入学金」と「前期授業料等」の納付の猶予 本学への入学が確約しており、日本学生支援機構から「奨学生採用候補者決定通知」が交付され、「給付奨学金」の採用候補者に決定している方を対象に、入学手続き時に必要な「入学金」と「前期授業料等」の納付を、入学後（6月末）まで猶予している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 （概要） I. 就職支援 1. 学生対象 （1）支援体制：進路相談課 （2）正課授業：「進路設計1AB 2AB」 （3）就職支援授業プログラム 「進路選択ガイダンス」「インターンシップガイダンス」「SPI 模試」「SPI 講座」 「面接での表現講座」「自己分析講座」「履歴書講座」「面接特訓会」「内定体験者発表」 「業界研究会」「業界研究フェア事前ガイダンス」「合同企業面談会事前ガイダンス」 「履歴書見直し講座」「面接見直し講座」「外部講師による履歴書添削」 （4）インターンシップ・業界研究：インターンシップフェア・業界研究フェア （5）プラスワンプロジェクト 2. 教職員対象 （1）「教育課程等に関する企業との意見交換会」（令和5年度はWeb型で実施） 3. 保護者対象 （1）1年生保護者対象就職ガイダンス II. 就職斡旋 （1）「学内合同企業説明会」 （2）「学内単独説明会」 （3）「人事担当者・OBによる就活カフェ」 （4）「就職相談会」 （5）「全員（個別）面談」 III. その他 1. 交通費支援制度 2. 求人情報検索システム 3. 内定報告書検索システム
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 （概要） 1. 定期健康診断 新入生と2年次進級予定者を対象に実施。 治療が必要な学生については、本人または保証人に連絡。 2. 学生相談室 臨床心理士が相談に応じるほか、定期的に精神科による「心の健康相談」を実施。 障害を持つ学生に接する機会が多い教職員対象とした、事例を基にした勉強会実施。 学生に居場所づくりと同世代の関係構築の促進を図る「ランチグループ」の開催や、気軽に利用できるフリースペースを設けている。 3. 保健室 学内での発病やけがの場合に応急措置を講じる。 身長・体重・体脂肪、血圧などの測定ができる。

- | |
|--|
| <p>4. 新入生健康診断およびWEB健康調査のフォロー
新入生WEB健康調査の集計後に結果を学生個人シートに反映させ、ゼミ担任による個人面談時に活用。本人の希望や面談担当者の判断により、学生相談室や支援担当事務職員に繋げている。内部疾患の場合も同じく、保健室での対応をお願いしている。</p> <p>5. キャンパス内全面禁煙
キャンパスでの受動喫煙防止、学生の喫煙習慣防止のために、最大限配慮した環境づくりを進めている。</p> <p>6. 課外活動
課外活動を通じて、心身の健康と学生生活の充実を図るために、新規サークル立ち上げ支援や、優秀な成績を収めた団体や個人に対する表彰制度、および金銭面での不活性を極力減らすために、経費の補助などを実施。</p> |
|--|

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

『教育・研究活動報告書（IR レポート）』

https://www.fit.ac.jp/daigaku/disclosure/kyouikukenkyu
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F240310111042
学校名（〇〇大学 等）	福岡工業大学短期大学部
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人福岡工業大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		63人	49人	－ 人
内 訳	第Ⅰ区分	38人	35人	
	第Ⅱ区分	13人	－ 人	
	第Ⅲ区分	12人	－ 人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				－ 人
合計（年間）				68人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	— 人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下）	人	— 人	— 人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	— 人	— 人
計	人	— 人	— 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	人	— 人	— 人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	人	— 人	— 人
計	人	— 人	— 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。